

## 高姫集落「集落営農ビジョン」

作成日：平成 23年2月 8日  
 修正日：平成 23年3月 9日

1 地区の範囲 南部町 高姫地区		
2 地区の概要		
水田面積	25,457ha	
主な水田栽培作物	水稲、そば、里芋	
農家数	35 戸	
認定農業者数	0 経営体	
地域水田農業ビジョンの担い手数	0 経営体	
3 組織化の目標（設立時期の目標は、事業実施年度内とする。） ・設立時期（規約等の制定日）【平成16年 4月 1日】		
	組織形態（該当形態に○）	加入農家数
【現状】前年度実績 (22年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未組織</li> <li>・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作業受託型</span></li> <li>・ 共同利用型</li> <li>・ 協業経営型</li> </ul>	25戸
【目標】事業開始翌年度 (23年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共同利用型</li> <li>・ 協業経営型</li> <li>・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作業受託型</span></li> </ul>	35戸
4 集積率（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標		
項 目	【現状】	【目標】
集 積 面 積 ①	10,921 ha	14.82 ha
うち経営及び作業受託 ②	10,921 ha	14.82 ha
対象水田面積 A	25,457ha	25,457 h a
集 積 率 ①/A	42.9 %	※③ 58.2 %
うち経営及び作業受託 ②/A	42.9 %	※④ 58.2 %
注1) ※③の集積率の目標は採択要件、50%超が必要。 2) ※④の作業受託による集積率の目標が、50%超の場合は事業費上限10,000千円、50%以下の場合に事業費上限5,000千円 3) 集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により作成。		

## I 集落営農に対する基本方針(自由に記載)

### 【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

#### 1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

##### <現状及び課題>

高姫集落は、南部町賀野地区の南西部に位置し、水田耕作面積25.5ha、丘陵地に果樹(柿)の栽培を営む実り豊かな集落であります。

当集落においては、早期に圃場整備事業により農地や農道の整備を行い、農地の効率的な利用を模索する中、水稻の生産調整にも積極的に取り組んで参りました。

しかし、近年は農業従事者の高齢化、米価の継続的な下落等により、各個人の責任で行われるはずの水田の維持管理作業が大きな負担となりつつあります。又、地区内の農家のほとんどが兼業農家であり、農作業に従事する時間が限られることなどから、農家の中には水稻、転作を問わず他の人に耕作を一定期間委ねたいと希望する農家も多い。

##### <生産組合の現状>

- ① 既に、集落の農家のうち4戸に農業後継者がなく、その圃場を高姫生産組合が耕作している。今後さらに、農業後継者がいない農家が出てくることが予想され、耕作放棄地の発生が懸念されます。
- ② 現在の高姫生産組合は8年前に3人グループから高齢化を理由に引き継いだものである。1台は5年前に購入したが、もう1台は旧式の機械であり、故障も多く作業効率が劣るため、現行の面積以上の刈り取りをこなすには、難がある状況である。また、作業労力の軽減と効率的な農業を図るために作業機械の導入を考えています。現在は1台で10haを刈っています。

今後、農業機械の共同利用、担い手による受託作業の拡大などを通じて生産性の向上と経費の削減に努め、地域の農地を守り、高姫生産組合が中心となり、効率的な生産体制を整備し営農意欲の高揚と地域の活性化に努めます。

##### <将来のビジョン>

新型コンバイン導入により、将来にわたって継続的な農業生産活動が可能になります。また、当集落の水田農家が今後も不安を抱くことなく地域で生活し、農業に携わっていくために、高姫生産組合が水田の農業機械を購入し、農作業の面積の拡大を行い、効率的・安定的な農業の実現目指します。

- ① 農業の担い手となる農業者の育成は、活動組織(高姫生産組合)の体制強化に繋がることから、定年帰農者等を担い手に育成し、集落の営農体制の整備を図ります。
- ② 水田農作業の機械化・共同化による作業負荷軽減と低コスト化を図ります。
- ③ 高姫生産組合では、機械の導入により高姫部落だけでなく、井上、御内谷、金田部落にも積極的に出掛け、受託作業を拡大します。

#### 2 水田作付計画、生産調整の方針・具体策

##### <水田作付け計画>

平成22年度の作付け状況は、地区外も含め10.95haであった。農業機械のうち、特にコンバインは作業期間が集中する。この為刈り取り期間を分散して、地区内の水稻作付けをひとめぼれ(今年度実績8.50ha)、ヒカリ新世紀(1.03ha)、コシヒカリ(0)、飼料米(1.42ha)に想定して、品種編成を計画的に分け、23年度の作付けから取り組むことにする。

##### <将来のビジョン>

水田農業については、地域で連携を図り水稻、転作作物を計画的に作付けし、安心・安全な農作物の生産に努めます。

今回のコンバイン導入により、井上、御内谷、金田地区にも積極的に出掛けて行き、現在の1.57haから、さらに受託作業の拡大を目指します。具体的には高姫集落での集積14.8ha、地区外1.57ha、合計16.4haを2台のコンバインで計画的に受託作業を行います。

### 3 農業用機械施設の効率利用

#### <現状及び課題>

当集落の平均水稲経営耕地面積は38.7aで兼業農家が多く、高齢化が進んでおり農業機械投資と農作業の負担が大きく、水田耕作維持が困難になってきています。

- ① 低迷する米価の中で、高い農業機械の購入が出来ない。現在の機械では、組合が受託する量に対して、十分にこなすことができない。また作業効率が劣るため、現行の面積以上を刈り取るのは、困難である。

#### <将来のビジョン>

- ① 高齢化等により現状のままでは、当集落の農地、農道・用水路の維持が年々困難になっていくことが予測される。  
高姫生産組合がコンバインを保有し、農作業の受託面積を拡大し、作業負荷の軽減と低コストの集落営農を目指します。
- ② 高姫生産組合の経営安定は、水田と果樹の兼業複合経営が多く、水田農家の安定にとどまらず、果樹農家への影響も大きく、フルーツの里としての地域農業の振興・活性化につながります。

#### <具体的取組>

- ① 地域の活性化のために、高姫アグリユニオンと協力することで、集落の農業コストの軽減を図り、農業を今後とも継続していける集落作りを目指します。
- ② 現在、10.95haを機械の受託作業により作業しているが、新たに他部落を含め5名の組合加入を見込み、5.46haの経営面積の拡大を図ります。
- ③ 研修会や話し合いを重ねることにより、地域農業の将来性に対する意識の醸成を図ります。

## II 農業用機械施設の整備方針

### 1 本事業で導入する機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月
コンバイン	4条刈り	1台	8,819,000	平成23年7月